

タイトル

【開催報告】ASP第1回目『現代アートについて考える』／山本浩貴(文化研究者/アーティスト)2023.6.10(土)16:30-18:30開催分

- アーティストの実践的な学びの場『アーティストスタートアッププログラム』がスタート！
アーティストの成長・交流拠点 Artist Cafe Fukuokaでは、アーティストの方々が実践的に学び次のステップアップにつなげていくためのプログラムとして、『アーティストスタートアッププログラム(ASP)』<https://artistcafe.jp/information/230512/>をスタートさせました。本プログラムは、全8回の連続講座から構成され、アーティストにとって必要な現代アートの知識やアーティストとしての姿勢、税や契約に関わる部分などを各分野の専門家から学ぶ場となっています。

- 山本浩貴氏(文化研究者/アーティスト)による『現代アートについて考える』
ASPのプログラム第1回目は、アーティストとして活動をする上で、非常に重要な基礎となる部分『現代アートについて考える』でした。講師としてお迎えしたのは、文化研究者・アーティストの山本浩貴さんです。



山本さんは、金沢美術工芸大学美術工芸学部美術科芸術学専攻・講師であり、各地で開催されるアートイベントや美術系のメディアなど、様々な場面で講演されるなど、全国各地でご活動されています。著書に『現代美術史—欧米、日本、トランスナショナル』や『ポスト人新世の芸術』などがあり、美術評論家としても活躍されています。

会場であるArtist Cafe Fukuokaのギャラリーでは、現地39名の方が参加され、オンラインでは87名の方にご参加いただきました。

山本さんからは、現代アートとはなんなのか、歴史的、社会的なさまざまな背景の中でどのように変化してきたのか、また、現代という一つの歴史の流れの上で、現代アートにどのような意義があるのか等をお話いただきました。

その中でも、現代美術とは、自己の芸術の自立性を疑い、解体していくものであり、考えの正しさを結論付けるものではない。現代アートとは様々なものにかかれていて常にオープンでありながら、自分なりの解をみつけなければいけない。アートに携わる上でこういった様々な考え方を知っておくことは決して無駄ではない。今回の講義内容を土台として、それぞれが自分の立場で受け取ること、そして、変容や反論することが集合的プラットフォームとして最も機能した時に、芸術が大きな可能性を生み出すと考えている、といったお話をさせていただきました。

その他、キーワードとして下記が挙げられました。

- 現代アートは『現代』というきちんとした歴史を表すもの
- 自己言及的な問い(アートとは何か。)
- 様々な『中心主義』への抵抗
- 個々のポジショナリティ(立場性)への感受性が重要
- 『変容』『生成変化(プロセス)』『一次性(temporality)』『可傷性(vulnerability, precariousness)』

講義後の、質問の時間ではアーティストの方から、自然とアートの関係性についてやアートの自律性についての考え方についてなど、とてもリアルなご質問がなされており、山本さんのご回答の中には、アーティスト活動をする上で重要なヒントが多くあったように感じました。

- 交流会_八頭司昂さんの作品紹介と講評

山本さんの講義後、会場をコミュニティスペースにうつして、福岡・佐賀を拠点に活動するアーティストの八頭司昂さん<https://artistdb.artistcafe.jp/yatojitakashi/> の作品をご本人から紹介いただき、山本さんから講評をいただきました。アーティストカフェの壁面スペースには100号の大きな2枚の作品が展示されています。八頭司さんからは、この作品に込めた想いや自分自身の関心、技法などを丁寧にご紹介いただきました。

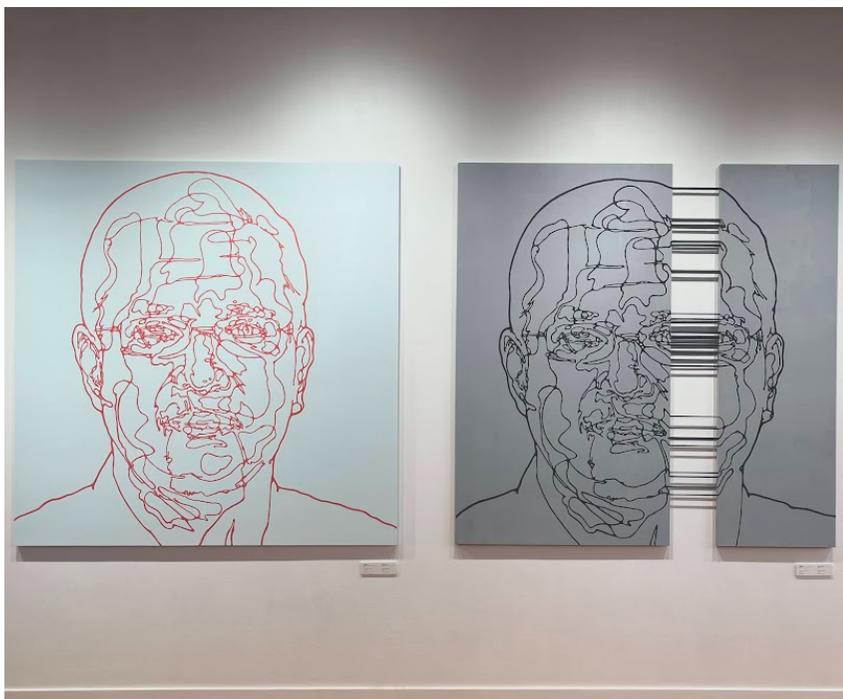
山本さんからは、題材はAIで生成しても人間のバイアスがあることが面白い。小作品で数を展開した見せ方でどのような集合値が現れるのか見てみるとおもしろそう。ある種の違和感や不安感を感じさせ、機械と人間のハイブリッドというか、おもしろい形で融合しており、今後この部分を言語化しながら展開していくとまた別のものが見えてくるかもしれない、といったお話をいただきました。

その後の時間も会場内で多くの方々が交流をしていただきました。

ご参加いただきました皆さま本当に有難うございました！！

今回、私たちスタッフ側も初めてのハイブリット開催となり、不慣れで皆様にはお聞きづらい点もあったかと思えます。

本プログラムをお申込みいただいた方には、期間限定ですが講義部分のアーカイブ視聴をご用意していますので、是非ご利用ください。





八頭司昂氏

1990年愛知県生まれ。2015年佐賀大学大学院教育学研究科教科教育専攻美術教育専修修了。2013年度三菱商事アート・ゲート・プログラム奨学生。主な個展に、「はんすう_その後」(みぞえ画廊東京店、2022)、「はんすう」(みぞえ画廊福岡店、2022)、「変換する絵画」(大川市立清力美術館、福岡、2019)、グループ展に、「未来への視点 vol.1」(大川市立清力美術館、福岡、2023)、「Hi! TOUCH」(PERHAPS、佐賀、2023)、「宮崎アーティストファイル ダブルアップ展」(高鍋町美術館、宮崎、2023)、「Art Fair TOKYO」(東京国際フォーラム、2023)、「ART FAIR ASIA FUKUOKA」(福岡国際会議場、2022)、「TAGSTÅ art show at Whimsy works」(Whimsy works、台湾、2022)、「オンラインとリアル展示/春夏秋冬の花 2020」(konya-gallery、福岡、2020)、「TAGSTÅ ART SHOW IN TAIPEI」(come up、台湾、2019)、「アートガイア@城南島 現代アート展」(ART FACTORY城南島、東京、2019)、「22nd SHANGHAI ART FAIR」(上海展示貿易センター、中国、2018)、「景色のそこへ、その景色へ Views of Chikugo -Exploring Scenes」(九州芸文館、福岡、2016)、「沸点」(田川市美術館、福岡、2016)など。

アーティストスタートアッププログラムの第2回は、7月22日(土)15:00-17:00

彫刻家／評論家／出版社代表でもある小田原のどかさんによる『アーティストについて考える』です。

2回目からのご参加も可能です。

多くの方にこの機会を活用し、アーティストとしての次のステップにつなげていただけたらと思っています。

申し込みはこちらから▶ <https://forms.gle/BSUormZVZbCSW5fQ8>



小田原のどか氏

1985年宮城県生まれ、東京都在住。彫刻家、評論家、出版社代表。芸術学博士(筑波大学)。主な展覧会に「あいちトリエンナーレ2019」、「PUBLIC DEVICE -彫刻の象徴性と恒久性-」(共同キュレーター、東京藝術大学大学美術館 陳列館、2020年)。主な著書に『近代を彫刻／超克する』(講談社、2021年)。経営する版元から『原爆後の75年:長崎の記憶と記録をたどる』(長崎原爆の戦後史をのこす会編、書肆九十九、2021年)を刊行。「東京新聞」「芸術新潮」「美術手帖(ウェブ)」にて評論を連載中。